

学校セキュリティポリシー策定と課題

兵庫県三木市立緑が丘中学校 校長 横田 義昭

me890617@ns.miki.ed.jp

http://www.miki.ed.jp/jh/midori/

キーワード：情報セキュリティ、危機意識、個人情報、情報漏えい

1. 本校における情報セキュリティの現状

1. 1 危機意識を深める研修

本校では新聞・テレビ・雑誌等で報道される情報の安全管理に関する事例を教材に、安全管理の意識付けを行っている。最近では、車上狙いに遭い生徒の名前や成績等の書類が盗まれた事例を取り上げ、研修を行った。内容は、日曜日の正午ごろ、約1時間路上に車を止めておき、ドアの鍵を壊されて車の中に置いていたカバンを盗まれたというものである。そして、各生徒の保護者の家を回って謝罪をしたという設定にした。指導としては、個人情報が入ったカバンやパソコンをやるむを得ず持ち出すときは「直帰」すること、直帰できない時や車から離れる時には車内に置かず身に付けておくこと。さらに、個人情報の入った書類やデータはできるだけ職場から持ち出さないことである。どうしても持ち出す時には管理職である校長、教頭に届けるようにしているが、持ち出し簿のような書類はまだ用意できていない。

こうした事例をもとに個人情報に関する問題意識を深め、万が一の時には大変なことになること。個人に悪影響が及ぶことや数百人の生徒宅を謝罪のために家庭訪問するに要する膨大な時間、学校の名誉に傷をつけることや他の教職員に多大な迷惑をかけることを強く指導している。

情報セキュリティに関する研修会は頻繁に持つことができないので、漏えいや盗難事件が報道されるとその内容を朝の職員朝会で伝え、意識の維持に努め、学校に混乱を来さないように努めている。

1. 2 情報資産の管理の例について

昨年度のことであった。定期テストの答案用紙や学級名簿などとともに教職員一人一人の貴重品の管理は鍵のついた机の引き出しに保管するよう朝の職員朝会で知らせると、鍵がなくて施錠できない引き出しがあるとの声が返ってきた。驚いて教頭に指示し鍵のない机等を確認の上、鍵の製作を依頼した。

学校には指導要録や出席簿等を保管する金庫が、校長室に設置されている。以前、金庫のダイヤルは触らずに鍵だけで操作する学校に勤務したことがあるが、これではセキュリティ上問題がある。本校では、多少不便に感じてもダイヤル操作と鍵の2つの操作で開く方法にしている。そして、帰るときにはいつもダイヤルを回して帰っている(写真1)。



写真1 金庫

学校が管理する多くの情報資産を上手に管理するためには、それぞれの情報資産に対してどのような脅威があるのか、具体的なリスク対応策はどうすればよいのかを考えておかなければならない。しかし、全体を見通した形では対応策は検討したことはなく、思いついたものに対して対応策を考えている現状である。

2. 市のセキュリティポリシー策定委員会を通して

今年度、市の学校セキュリティポリシーの策定委員になってほしいとの要請を受けた時、セキュリティポリシーとは何か、よくわかっていなかった。セキュリティポリシーに関する会議を重ねる中で、徐々にそれが分かってきた。そして学校の情報セキュリティを確保することにこのセキュリティポリシー策定がつながっていることがようやくわかってきた。会議はリスクや情報資産の整理、リスク対応、そして、情報セキュリティポリシーの具体的な策定へと進んできた。学校における情報資産の整理や守るべき情報資産の絞り込み、脅威の評価、リスク対応の必要な領域

表1 リスク対応策表

三木市立緑が丘中学校等文書一覧表		H17.4.1~								
分類区分	学校(園)	小分類	(文)	書	巻)	保存年数	重要度	字面への情報毀損	情報セキュリティ脅威別	脅威
1 総務	1 総合	経理文書	密	小						
2 運営	2 運営	学校(園)の承認	密	大	○	11	12			小
		校(園)長事務用簿	密	小						
		学校(園)日誌	密	大	○	11	12			小
		職員会議会議録	1	大	○	11	12			小
3 文書	3 文書	文書関係	密	小						
		文書取扱い基準関係書(規程・要綱等)	密	小						
		三木市立緑が丘中学校等文書一覧	密	小						
		文書関係	密	小						
		公開情報	密	小						
		公開情報(区別)承認申請書	密	小						
		公開情報申請書	密	小						
		教育職員関係文書	密	小						
		職員関係文書	1	小						
		校務文書	1	小						
		職員会議決議文書	1	小						
		学校内行動・応答関係等	1	小						
		各種関係	1	小						
4 調査統計	4 調査統計	文書関係	密	大	○	5	8	10		小
		兵庫県教育委員会調査報告書	密	大	○	2	4	10	11	小
		その他調査報告	密	大	○	2	4	10	11	小
5 関係	5 関係	学校(園)関係	密	小						
		学校評議会関係	密	大	○	2	5	10	11	小
		P.T.A関係	密	小						
		事務関係	密	大	○	2	4	4		小

の特定について検討を行っている、判断に困る場面がよく出てきた。この情報資産の重要度は大なのか中なのか、守るべき情報資産なのか、学校セキュリティの脅威例はどれに該当するか、等々迷いながら、進んできた。学校にある各情報資産は、守るべき情報資産であるか否か、情報セキュリティ脅威はあるのか、あるとすればどのような脅威かということは、教育委員機が作成している学校等文書一覧表をもとにした表に記述していった。

3. 本校におけるセキュリティ対策

(1) コンピュータ及びネットワークの使用に関して

- ・ 個人情報が入ったデータは、サーバやコンピュータ内のハードディスクには保存せずに外部メディアに保存し、鍵のかかる金庫等に保管する。
- ・ サーバやコンピュータ内にある不要なファイルは消去しておく。
- ・ 一定の時期になると不要なメディアは廃棄・処分する。
- ・ 個人コンピュータはネットワークに接続しない。
- ・ 家庭では、ファイル交換ソフトなどは、仕事に使うコンピュータにインストールしない。
- ・ 公的なコンピュータに無断でソフトをインストールしない。
- ・ 個人情報等が含まれる重要なデータについては、暗号化するパスワードを設定する。



写真2 一人一台のコンピュータ

(2) 研修

学校セキュリティポリシー策定は大事なことであるが理解が不十分である。そこで、学校セキュリティを確保するためにも、また、セキュリティポリシーが重要であることを理解するためにも研修を計画した。研修は、学校における情報セキュリティ脅威とそのリスク対応策を考える内容を予定した。時間の関係でその中の個人情報保護関連に絞っての研修である。

(3) 課題

学校セキュリティポリシーそのことへの理解が難しいと思う。個人情報に関する問題意識の理解はそれほど難しくないが、学校の情報資産については自分自身とのかわり度が小さいために、例えば守るべき情報資産であるか否か、情報セキュリティの脅威は何かについて、何でこのことを研修しないとだめなのか。情報セキュリティポリシーのひな形も日常の教育活動から離れているところがあり、自分自身の大きな課題であるとの意識が低いところである。

しかし、情報管理は待ったなしである。今後とも研修につとめ、情報の漏洩等が起こらないようにしたい。

4. まとめ

今までは、学校情報セキュリティという難しいことは分からないので、担当者に任せておけば良いと思いがちであった。今回、管理職として学校セキュリティポリシーに策定に取り組んだことにより、やはり、管理職が情報セキュリティに関してよく理解し、教職員を引っばっていくことの大切さを再認識することができた。情報セキュリティに関する通達文についても、情報セキュリティについて学習せずに読むのと学習して読むのとでは、その文面から読み取れるものが違ってくる。

また、情報セキュリティについては、環境の変化に伴い新しい脅威が発生しているので、定期的に研修を取り入れて脅威の見直しをしていく必要を感じている。これから、本校において学校情報セキュリティポリシーを完成させていくのであるが、機械的に作成するのではなく、作成過程が情報セキュリティの内容理解につながるよう意識しながら策定作業を進めていくつもりである。

参考文献

財団法人コンピュータ教育開発センター：学校情報セキュリティ・ハンドブック